船員自主改善活動への活用 —船内向け自主改善活動（WIB）の進展— 久宗 周二（高崎経済大学経済学部）

The study on Introduce Work improvement on Board for Merchant and Passenger vessels
Shuji HISAMUNE (Takasaki City University of Economics),

1. はじめに

船員労働災害の発生率は、平成26年度の船員の休業4日以上的一般船舶の労働災害発生率は労働者千人ごとに7.3人であり、全産業2.3人の3倍となっている。また、平成26年度において、漁船船員は千人率で14.2%であり、一般船舶の7.7%と比較して2倍程度となり、高い発生率になっている。船員の労働災害を減少させるためには、仕様が異なる個々の船舶毎に船員自ら自主的に船内を改善することが効果的である。WISE（中小企業向け自主改善活動）などの参加型改善活動は、参加者自らが職場の改善案を考える手法である。それを船員向けにアレンジしたものが、船内向け自主改善活動（Work Improvement on Board 以下WIBとする。）であり、その中でWIBアクションチェックリストは、参加者の現改善提案ツールとして重要な役割を示している。WIBは国土交通省・水産庁の補助事業として全国で普及・啓発を行っており、その概要について報告する。

2. WIBアクションチェックリストの特徴

WIBアクションチェックリストは、低コストで簡単に、参加者自らが改善を進めることを目的としている。アクションチェックリストの技術領域は、a. 整理整頓、b. 転倒防止、c. 係船機器・漁労機器、d. 危険の回避、e. 照明、f. 作業のしやすさ、g. 情報伝達・衛生設備で、低コスト改善を優先的に行っている。項目の例を図1に示す。大きさはA3判裏表一枚として現場で活用しやすく、イラストを付加して参加者が改善をイメージできるようになっている。

WIB講習会では、このアクションチェックリストの他、良い改善事例集、改善の進め方シートの、WIB方式労働安全衛生マネジメントシステム（以下OSHMSとする）シートを使用する。

講習時間は1時間以内、職場点検、改善の話し合いを含めて2時間以内の講義になっている。

実施日 27 年 5 月 〇 日		実施者 〇 〇	
項目	今のままで良い	改善が必要	優先します
整理・整頓			
1. 使用しない器具は、所定の場所に置いています。 (自由記述欄)	❌	❑	❑
2. 工具、漁具などのために、使いやすいくわたりやすい機、場所があります。 (自由記述欄) 〇〇に棚を作る	❑	❑	❑
3. 人や資材が安全に動けるように、通路の境界線には印があります。 (自由記述欄)	❑	❑	❑
4. 通路は、障害物やつまずくおそれがないよう整備しています。 (自由記述欄)	❑	❑	❑

図1 WIBアクションチェックリストの例

3. WIBアクションチェックリストの成果

水産庁は平成25年度より5か年計画の補助事業で「安全な漁業労働環境確保事業」を開始した。漁業者に安全に関する知識の他に、自主改善活動の手法を学び現場で安全を進める「安全推進員」を育成する事業で、計画では年間500人、5年間に2500人を育成する計画である。また、国土交通省は第10次船員災害防止基本計画（H25～29）において、WIB普及促進することを施策に挙げ、補助事業としてWIB指導者の養成の調査などを実施している。

水産庁の安全推進員事業では、4年間約100回開催し、約3,500人受講して安全推進員となった。国交省事業では、2年間22か所約1,000人受講した。さらに、特に中国や九州運輸局では運航労務監理官自らが講師を行っている。

水産庁の安全推進員講習会の後に参加者が、海上の近辺に接岸した漁船を実際に点検して改善案を出すプログラムを2014～15年に20カ所で行い、198隻が参加して、301件（平均して一隻あたり約1.5件）の改善案が出された。

いずれにおいても、低価格、時間のかからない改善が多くを占めており、改善が促進されと考えられる。これらはWIBアクションチェックリストの効果であると考えられる。（表1、2）

表1 改善案の費用別の分類

	0円	10000円未満	10000円以上
運搬・物の管理	55 (87%)	8 (13%)	0
作業の安全	0	162 (91%)	16 (9%)
労働環境	0	44 (100%)	0
衛生・福利	6 (38%)	0	10 (62%)
計	61 (20.2%)	214(71.1%)	26 (8.6%)

表2 改善案の費用別の分類

	すぐできる	3日以下	4日以上
運搬・物の管理	55 (87%)	0	8 (13%)
作業の安全	29 (16%)	46 (26%)	103 (58%)
労働環境	0	44 (100%)	0
衛生・福利	6 (38%)	0	10 (62%)
計	90 (30.0%)	90 (30.0%)	121 (40.0%)

講習会の参加者に無記名によるアンケート調査を行った。漁船、旅客船、貨物船ともにWIBそのものについて「わかりやすさ」、「有効性」、「実用性」で高く評価された。講習会そのものに対する評価も高く、自主性を高めるためにも繰り返しの講習が求められていた。労働災害の減少など少しずつ効果がみられている。

4. 船内労働安全衛生マネジメントシステム

の推進

船員の自主的な改善活動をするためには、人件費、資材の提供をする船舶所有者が行わなければ、いくら現場から改善案が提案されても船員が継続的な改善活動を行うことはできない。国土交通省などは船内労働安全衛生マネジメントシステムを

進めており、特に中小の企業に推奨している。その為、WIBをベースに少ない人数で運航管理をしている中小の船会社でもできるように、短時間で、負担を少なく、わかりやすいWIB方式OSHMSを開発した。計画・実施・記録・見直しのPDCAシステムを、A4判1枚WIB方式OSHMSシートに記入していく。すべての船員が、アクションチェックリストを用いて参加して船内を点検することになっている。

5. 今後のすすめ方

WIBアクションチェックリストは、船種等の船の種類や、現地条件に合わせて作成して活用を図る予定である。

WIB式OSHMSは一般社団法人自主改善活動(WIB)協会等が中心になって普及・啓発を行っている。フェリー会社がWIB協会の認証を受ける等、いくつかの船会社などで積極的に実施をしている。さらに商船・旅客船会社は、国土交通省の運輸安全マネジメントシステムの評価を受けることが多い。WIB式OSHMSを運輸安全マネジメントシステムの内部監査を補完する方法として検討しており、フェリー会社と作業船の運航会社の協力で得て試行をしている。そこではWIBアクションチェックリストを改善報告として直接利用している。

今後もWIB式OSHMSを普及することにより、労働災害の減少と労働環境の向上に役立てていきたい。

6. まとめ

WIBアクションチェックリストは広域改善、自主提案に適合して設計され、WIB普及にとって大きな役割を果たしている。

参考文献

- 1) 国土交通省:第10次船員委災害防止基本計画
<http://www.mlit.go.jp/common/001011538.pdf>
- 2) 国土交通省海事局 船内の安全衛生マネジメントについて
http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_fr4_000008.html
- 3) 久宗周二 自主改善活動のすすめ 創成社(2016)
[連絡先]
ひさむね しゅうじ
e-mail : hisamune6@gmail.com